

インタビュー

名古屋テレビ放送 狩野 隆也社長

ローカル局の強み生かして 新分野にも積極投資

して経営安定

名古屋テレビ放送（メ〜テレ）で初の“生え抜き”社長となった狩野隆也さん。営業、報道畑の経験を生かし、テレビの「公共性」を強く意識しながらネット時代に対応。新分野への積極投資も打ち出して地域を走り回る。（聞き手／塚本隆 中部財界フォーラム社社長）

——初の生え抜き社長としての就任ですが、率直な感想を。

狩野 生え抜きだから何かが大きく変わるわけではないでしょうし、私自身も意識することはありません。ただ、社員が少しでもモチベーションを持ってもらえればいい。

就任翌日、社員に訓示で伝えたのは、放送の役割を再確認してほしいということ。公共性を持って地域の安全安心を確保する、これは主に報道の使命。私自身、もともと父親が新聞記者で子どものころから報道に携わる仕事をしたいと思っていました。大地震などの緊急時に、一人でも多くの命を救う役割を担っていることを、社員一人ひとりが心に持ってほしい。

もう一つは地域社会の文化や経済の発展に貢献すること。バラエティーなど多種多様なコンテンツを出し、それを生かして視聴者の信頼を得る。そのためにも経営を安定させていくのが社長としての務めだと思っています。

——視聴者の多様化やインターネットの台頭など、テレビを取り巻く変化への対応は。

狩野 会社全体として危機感はずっと持っていました。これまで右肩上がりだったテレビの広告費は、残念ながら緩やかな下落傾向に入っ

ています。地上波ファースト、地上波オンリーでない取り組みの強化は避けられません。そこで2年前からドラマなどの地上波コンテンツをパッケージにしてネット配信や販売を始めました。今年7月からは、全社的なデジタルマーケティングやインターネット戦略の旗振り役として編成局を「総合編成局」に名称変更。局内には「デジタルソリューションセンター」を新たに設け、社内に関連部署と連携しながらデジタル戦略やマーケティング戦略を進めています。

——そうした時代にローカル局としてどんな強みを生かしますか。

狩野 例えば33年目に入った朝の情報番組『ドデスカ!』はメ〜テレの財産。午前6時から8時という、視聴者が起きて、まずテレビを付ける時間帯にローカルな情報を出し続けている。視聴者の多様化に応えるという意味でもうちの強みだと思っています。

一方で、来年は東京オリンピックがありますが、大きなスポーツは権利の問題でローカル局が扱うのは難しくなっています。この地域でなら野球のドラゴンズ、サッカーのグランパス、あるいはフィギュアスケートなどを中心に、もう少し目の届かないところにも取材をして、き

狩野 隆也（かの たかや）

1959年11月生まれ。岐阜県恵那市出身。早稲田大学卒。1983年、名古屋テレビ放送入社。営業から報道局スポーツ部、編成制作局長などを経て2013年から取締役、今年6月に社長就任。

ちんと見てもらえる時間帯にコンテンツとして出していくのがローカル局の役目でしょう。さらに4K、8Kなどの次世代放送の技術を活用し、地上波だけでなくCS放送、動画配信、映画、イベントなど多様な出し口を前提としたコンテンツ制作に取り組んでいきます。

——就任会見では「2023年までに100億円」の成長投資戦略を明言しました。

狩野 2016年に経営戦略局の中に事業開発部を設置、17年には投資事業を運営する合同会社「名古屋テレビ・ベンチャーズ」を立ち上げ、14社のベンチャー企業などに投資してきました。そういう下地がある中で、さらに新しいところに乗り込んでいくつもりです。まだ具体的にお話できることは少ないですが、こうして「ぶち上げる」ことで今まで付き合いのなかった企業にも関心を持ってもらえる。さっそく複数の企業から反応はありました。また、現在改装工事中の名古屋テレビ塔の地下にはメ〜テレのグループ会社の地下街「セントラルパーク」があり、今後地域活性化の一環として何か取り組めればと考えています。

——これからの東海エリアの変化をどう見えていますか。

狩野 自動車産業はもちろんですが、工業だけでなく農業など、いろんな意味で豊かなエリア。その発展をわれわれも一緒になって支えていく立場です。例えば、岐阜県白川町への移住をテーマにしたドラマを2017年に第一弾として『岐阜にイジュー!』、18年には対象を4市町に広げ、第二弾の『イジューは岐阜と（ギフト）』を放送しました。深夜帯でしたが反響は大きく、実際に移住した若者が出てきたそうです。愛知県では東三河エリアの魅力を伝える動画コンテスト「東三河PR動画アワード」を東三河広域連合と主催しています。

——ご自身の趣味や休日の過ごし方は。

狩野 ランニングを50歳過ぎてから、健康のために始めました。今は週に4～5回、出社前に1回12キロほど走ります。マラソン大会にも出るようになり、東京マラソンは3時間25分で完走しました。しんどいですが、元の体型に戻るのが怖いのでやめられないですね。

一方、休日は家で録画したテレビ番組をひたすら観ています。テレビ業界は「働き方改革」も課題ですが、番組のクオリティを落とさないよう、業務の効率化を進めていかなければと思っています。

